

令和5年度 第2回 平塚市美術館協議会 会議録

- 開催日時 令和6年3月19日(火) 14時00分～15時40分
- 開催場所 平塚市美術館 研修室
- 出席者 委員 吉村維元、靱山昌夫、獅々倉聡、森下志麻、鈴木憲子、高橋孝祥（敬称略）
事務局 加藤特別館長、戸塚館長、勝山学芸担当長、江口学芸員、家田学芸員、
安部学芸員、高倉館長代理兼管理担当長、平本主査

■傍聴者 なし

■会議の概要

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 職員紹介
- 4 議題
 - (1) 令和5年度の事業報告
 - 展覧会
 - 教育普及
 - その他の事業
 - 施設利用者等の統計
 - (2) 令和5年度事業の点検評価
 - (3) 令和5年度の事業予定について
 - 展覧会
 - 教育普及
 - (4) その他
- 5 閉会

■議題及び質疑

吉村会長に進行をお願いした。

(1) 令和5年度の事業報告

「資料2」に基づいて事務局から令和5年度の事業実績について説明した。

(質疑)

- 委員 玉田多紀展における「教員向け実技講座」について、「小・中・高・特別支援学校の教職員（市内優先）」とあるが、一方でスクールプログラムでは県内他市の学校の対応もしている。この「教員向け実技講座」でも他市の教職員がいたのか、また、アンケート等を実施していれば、受講者の感想等を聞いてみたい。
- 事務局 玉田多紀展における「教員向け実技講座」は市内優先として開催したが、市外の教職員も参加している。アンケートは実施しているが、現在、資料が手元がないので、どんなご意見があったのかは、恐縮ながら御説明できない、

委員 スクールプログラムの「バックヤードツアー」とは、具体的にどこを案内しているのか。

事務局 スクールプログラムの「バックヤードツアー」は市役所等市内の公共施設見学の一環という形で実施した。この時は、事務室やトラックヤードを御案内した。依頼の内容に応じて案内する場所を検討し実施している。

委員 また、スクールプログラムとは別にワークショップ(令和5年度実施プログラム)でも小学生から一般を対象として参加者を募集したバックヤードツアーを開催している。

委員 アートカードの貸し出しがなかったようだが、アートカードとは何年前に作ったものか。

事務局 15年ほど前に作ったもの。

委員 アートカードの改訂の予定はあるか。

事務局 今のところ予定はない。

委員 学校の教材としても利用されているであろうから、機会があれば改訂されたほうがよいと思う。

委員 玉田多紀展の関連事業で「ひらしん平塚文化芸術ホール」で作品を出張展示されたとのことだが、「ひらしん平塚文化芸術ホール」が開館して間もないので、これは初めての試みなのか。

事務局 初めての試みである。

委員 この試みはどんな感じだったのか、もう少し具体的に教えてほしい。

事務局 「ひらしん平塚文化芸術ホール」に入った全ての方が通過する場所に作品を展示した。美術館の場合、美術館にしか興味のない方しか来ないが、「ひらしん平塚文化芸術ホール」に来られる様々な層の方が美術館でどのような展示をしているのかを知っていただくきっかけになるよう実施したもの。

委員 美術館は中心市街地の北の端あたりに立地していて、「ひらしん平塚文化芸術ホール」は西の端あたりに立地しているとイメージしており、立地的に平塚駅との関係で三角形になると思う。それぞれの施設が連携することによりエリアとして活性化するのではないかと思うが、いかがか。

事務局 街中での展示を続けてみようと考えており、各施設等との連携も今後相談したいと考えている。

委員 「ひらしん平塚文化芸術ホール」での出張展示を見たが、美術館での展示は敷居が高いイメージがあるが、あのような場所での展示は誰でも気軽に御覧いただける良い試みであると感じた。「ひらしん平塚文化芸術ホール」の「文化芸術支援室」という場所があるので、施設と連携して、そこで展示を行ったりすることにより、充実した展示ができるのではないかと思う。

事務局 出張展示中、「ひらしん平塚文化芸術ホール」では大ホールでのイベントが何回か開催されており、相当数の方々に作品を御覧いただけたのではないかと考えている。また出張展示を見たので、美術館の展覧会を見に来たという方もいっし

やると聞いており、様々な可能性があると感じているので、今後もぜひ検討していきたいと考えている。

(2) 令和5年度事業の点検評価

予め提出いただいた御意見をまとめた資料3に基づいて事務局から説明した。

(質疑)

- 委員 美術品の調査収集事業について、2点の作品の購入について「寄附金を活用して」という説明があったが、どのような趣旨の寄附金だったのか、作品の購入以外にも活用したのか
- 事務局 今年度、いただいた寄附金については、それぞれ、「作品の購入」といったような具体的な御指定ではなく「美術館の事業に活用してほしい。」との御趣旨であったため、補正予算として議会の議決を経たのち、作品の購入以外に4月から始まる展覧会の準備費用や所蔵品のパネル装丁、展覧会で使用する照明器具の購入、教育教育の普及体験事業で使用する資料の作成費用に充てさせていただいている。

(3) 令和6年度の事業予定について

「資料4」に基づいて事務局から令和6年度の事業実績について説明した。

(質疑)

- 委員 添付資料として提供されたアンケート調査の結果を見ると大変すばらしい評価を得ていると感じている。また、当初予算の状況をみると、来年度はいろいろな取り組みを意欲的に実施していこうという意気込みを感じる。特別館長から意気込みについてお聞かせいただきたい。
- 特別館長 今年度は私にとって初めての年でもあり、小さな実験をすることを続けてきました。「開かれた美術館」とはどういうものなのか、内部でも議論をしてきた。まずは私たちが「学芸員室から出てみよう。」ということで、その一つが出張展示であり、来年度も出張展示を計画していることや、夏のワークショップについて規模を大きくしてできないかなど、展示室だけではなく、外部から見える場所(館外)でやってみようということを考えている。来年度の大きな目標であり、広報の在り方についても考えたい。また、これまで美術館を支えてくださった方々をベースとして新たな来館者層を集客していくことが来年度の課題だと考えている。

(4) その他

「資料5」に基づいて事務局から令和6年度の当初予算について説明した。

(質疑)

特になし

■閉会

特別館長より閉会を告げた。

以 上